

世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策 山室保全会の活動状況

～農業用水源の湿原の生態系に配慮～



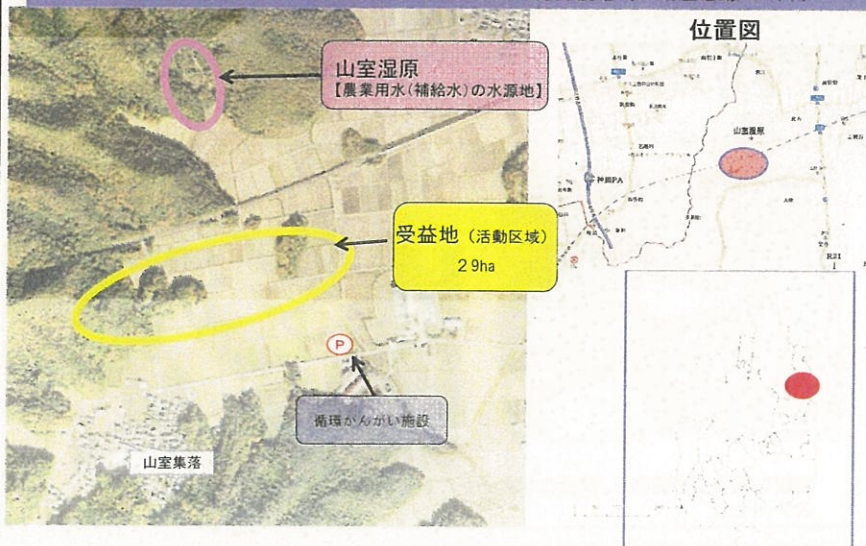
(米原市山室)

平成26年10月

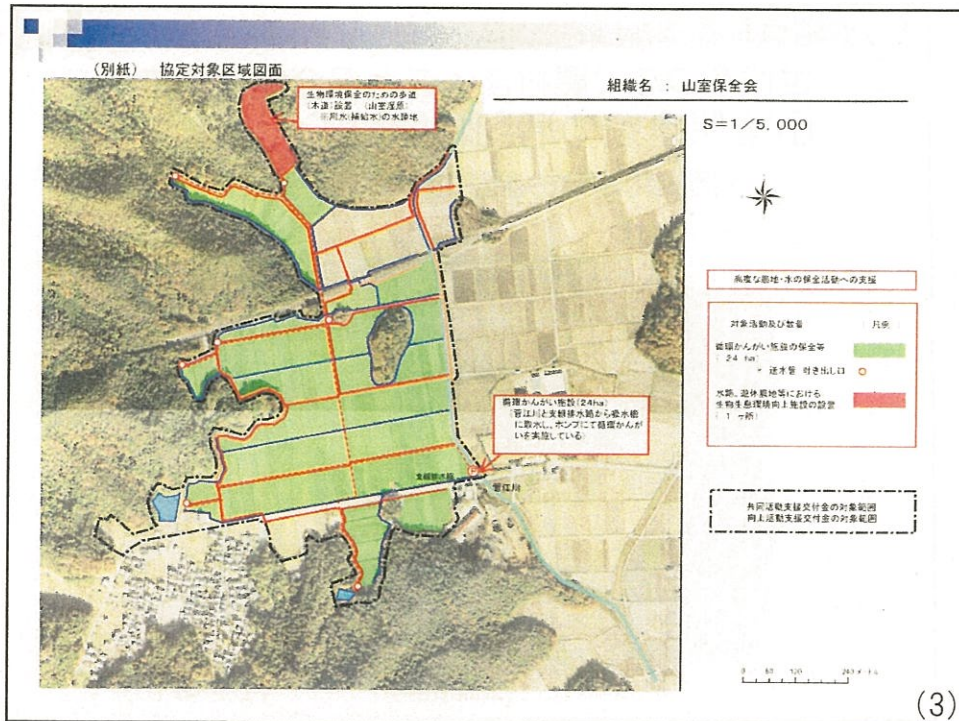
(1)

【地区概要】

- ・取組面積 29.0 ha (田 28.9ha、畑 0.1ha)
- ・資源量 水路 7.7km、農道 4.4km、ため池 2箇所
- ・主な構成員 農業者34名、自治会、老人会、婦人会
- ・H25実績交付金 共同活動695千円、向上活動/高度な農地・水の保全活動434千円



(2)



山室保全会（滋賀県米原市）

○平成24年度
山室自治会が母体となって「山室保全会」を設立。その年から「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」の活動をスタートさせた。

○地域の草刈や泥上げなどの共同活動だけでなく、向上活動支援交付金の「高度な農地・水保全活動として・琵琶湖の水質保全に資する「循環かんがい施設の保全」
・山室湿原における管理・観測用の木橋歩道の補修 などを実施。

何度も役員会を実施し、総会にはかかったなかで、みんなの合意のもと活動がスタートした

(4)

共同活動

基礎活動: 水路や法面・ため池などの草刈り



住民一丸となって草刈作業



ため池の草刈

(5)

共同活動

基礎活動: 水路の泥上げなど



腰の痛くなる 用排水路の泥上げ作業も みんなで一緒に!



(6)

共同活動

基礎活動:異常気象(台風など)後の見回り・応急措置作業



台風による大雨での湛水状況を見回り



その後 各施設を見回り 点検

点検後
崩れそうな場所については鉄止を施工

(7)

共同活動

基礎活動 施設の適正管理(獣害防止柵の維持設置)



・山が近くにあるため、年々獣害による農地被害がひどくなってきている。
・獣害柵をみんなで直営作業で設置

「これで、どうだ!」という「ドヤ顔」の1枚

(8)

共同活動
基礎活動: 機能診断、施設の適正管理(農道補修)



水路の機能診断



施設の機能診断後の法面の補修作業



老若男女みんなで農道の補修作業



農道の補修(完成状態)

(9)

共同活動
基礎活動: 施設の適正管理(塗装補修)



施設の塗装作業



塗装が終わって ピカピカに!



(10)

共同活動
農村環境保全活動：農業用水の保全（水質保全）



水質モニタリング調査



しっかり畦塗をして濁水を出しません！



STOP! 濁水

「濁水を出しません」
啓発看板の設置にも
力が入ります

(11)

共同活動
農村環境保全活動：地域環境の保全（生態系保全）



生きものの生育に配慮した泥上げなどの実施（カメや魚の保護）



山室湿原の観察会



小学校との連携

夏休みに学校行事として毎年開催

(12)

共同活動
農村環境保全活動：地域環境の保全（生態系保全）

山室湿原の観察会



自治会館で自然観察の取組を展示

(13)

共同活動
農村環境保全活動：地域環境の保全（景観保全）



明るい笑顔で、家族みんなで地域の環境を守る 子どもの頃から地域を愛する
気持ちをもつことも、こうした活動から生まれます

(14)

向上活動

高度な農地・水の保全活動 生息環境向上施設の設置(木橋歩道の補修)



山室湿原の看板



山室湿原のおやくそく



山室湿原の状況

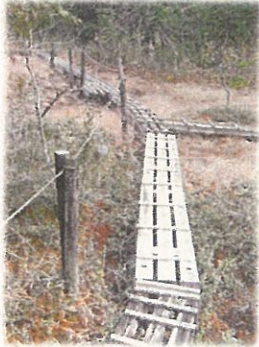


山室湿原の状況

(15)

向上活動

高度な農地・水の保全活動 生息環境向上施設の設置(木橋歩道の補修)



木橋の現状

湿原を守るため、防腐剤を使っていないため、ゆえに朽ちるのも早くなります。



木橋の新設

朽ちた木橋を順番に直営作業で新しくしていきます

これで、子どもたちにも安心して歩いてもらえます

湿原が守られることで農業用水の源が保全されます。



(16)

向上活動
 高度な農地・水の保全活動 生息環境向上施設の設置(木橋歩道の補修)



木橋の新設

木材は、みんなで力を併せて直営で人力で施工しています。
 湿原を守るため、重機も使用しておりません。環境を考え木材は間伐材を利用。
 防腐剤も使用しておりません。

(17)

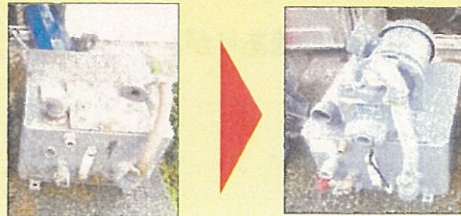
向上活動
 高度な農地・水の保全活動 農業用水の保全(循環かんがい施設)

現状
 ・昭和60年頃のほ場整備によりポンプ場を設置した。
 ・排水を揚水機場からポンプアップし、循環かんがいを実施している。
 ・農業管理組合により管理していたが、高齢化等の進行により吸水槽の土砂上げ等に苦慮している。

循環かんがい施設内部



真空ポンプの更新



(18)

取組における課題 および 今後の展開

- ・ 山室湿原の管理で年3回の伐採を実施しているが、伐採後に発生する残材の処分が課題となっている。残材についても資源として有効な活用を考えていきたい。
- ・ 地域資源の保全管理を恒久的な活動としてくため、より参加しやすい環境づくりが必要と感じている。
地域住民はもとより、もっと様々な方々、大学生などとも連携を図っていけるといい…。
- ・ 将来は、山室湿原の保全を通して、地域活性化を図りたい。
この地域の魅力をもっと多くの人々にも知ってもらうことで、さらに子どもからお年寄りまで、地域のみんなが元気になる。

(19)



ご清聴ありがとうございました

(20)